



どうとくのひろば

本年度の道徳教育を振り返って

本年度も道徳だよりを通して、本校の各学年の道徳の授業の様子や、子供たちがどのようなことを考え、学んでいるのかをお伝えしてきました。

道徳の授業は、学校教育活動の「要」とされており、子供たちが自分自身の生き方について考える大切な時間です。しかし、子供たちの道徳性は、道徳の授業だけで育つものではありません。学校生活の様々な場面や家庭での様々な場面、地域での経験など、日々の生活の中で少しずつ育まれていくものです。道徳の授業では、そのような生活の中で感じていることや考えていることを改めて見つめ直し、自分も周りの人もよりよく生きていくために大切なことは何かについて考えています。

今年度も、保護者の皆様から道徳だよりへの多くのご感想をいただきました。その中には、

- ・「正解がないからこそ、様々な思いをめぐらせながら深く考えられる」
- ・「道徳だよりをきっかけに、子供と友達や思いやりについて話す機会になった」
- ・「友達の立場に立って考えることや、いろいろな価値観を認め合うことの大切さを感じた」

などのお言葉がありました。道徳だよりが、ご家庭でお子さんと話をするきっかけになっていることを大変うれしく感じています。

子供たちは、日々の生活の中で、友達との関わりや様々な経験を通して、嬉しいことや悩むこと、迷うことなど、多くのことを感じながら成長しています。うまくいくことばかりではありませんが、その一つ一つの経験が子供たちの心の成長につながっていくのだと思います。

道徳の授業では、自分のよさについて見つめる時間も大切にしています。しかし、自分のよさに気付くことは、子供にとって簡単なことではありません。ぜひ、ご家庭でもお子さんの一年間の成長を振り返りながら、「こんなところがすてきだね」「こんなことができるようになったね」と声をかけていただけたらと思います。

今年度も、たくさんのご質問やご感想をいただきありがとうございました。保護者の皆様のお言葉から、ご家庭での子供たちの様子を知ることができ、私たちにとって大きな励みとなりました。

これからも、子供たちが自分らしく、そして周りの人と共によりよく生きていこうとする心を育ていけるよう、学校と家庭が力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

今年度もありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。



----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

